

聖路加国際病院内科部長

古川先生招き、感染症勉強会

城西病院の院内感染症対策委員会の勉強会が2日、城西総合健診センターで開かれました。講師には、日本の感染症医療のパイオニアとして活躍されている聖路加国際病院の内科部長、感染症科の古川恵一先生を招きました。

古川先生は「抗菌薬の適正使用と感染症対策」をテーマに講演しました。感染症の的確な診療や抗菌薬の適正使用、重症感染症に対する適切な治療法のポイントなどをスライドを使って説明した後、実際の症例に基づき、具体的な治療法や診断などを詳しく解説しました。

古川先生は「多くの細菌は、20分で2倍に分裂する。適切な抗菌薬を用い、適切な量を処方する基本的なことが大切な治療ポイントになる」とし「感染症は重症であっても適切な治療で治りうる。やりがいの大きい分野。そして治療によって生命の予後が左右される、医師の責任重大な分野」と述べました。引き続き、レジオネラ肺炎や肺結核、尿路感染、肺炎球菌髄膜炎などについて、初期の症状に応じた対応から、経過観察や検査の結果による診断、治療などについて、豊富な経験をもとに講演しました。

大切なのは患者の状態を診ること



古川恵一先生
聖路加国際病院
内科部長。1978
年新潟大学医学
部卒。1986年～8
8年、カリフォル
ニア大学サンフ
ランシスコ校感
染症科クリニカ
ルフェロー。日
本感染症学会の
認定感染症専門
医、評議員

最後に、「抗菌薬は点滴と内服はどちらが効果があるのでしょうか」、「点滴の速度はどのくらいがいいのですか」などの質問がありました。古川先生は「一般に点滴は、即効性があり、必要な濃度を達成できる。中には点滴でないと投薬できない薬がある」など、丁寧に回答して頂きました。

最後に「大切なのは、まず患者を診ること。患者を診てバイタルサインや意識状態など患者の状態で評価することです。データーによる効果の判定だけに頼るのは好ましくない」と指摘しました。

平成26年9月3日



約200人が参加して、熱心に学んだ

